二〇一五年度

N国語問題

注意

一　試験開始の指示があるまでこの問題冊子を開いてはいけません。

二　解答用紙はすべて**HBの黒鉛筆またはHBの黒のシャープペンシル**で記入することになっています。HBの黒鉛筆・消しゴムを忘れた人は監督に申し出てください。
（万年筆・ボールペン・サインペンなどを使用してはいけません。）

三　この問題冊子は**16ページ**までとなっています。試験開始後、ただちにページ数を確認してください。
なお、問題番号は**一～三**となっています。

四　解答用紙にはすでに受験番号が記入されていますので、出席票の受験番号が、あなたの受験票の番号であるかどうかを確認し、出席票の氏名欄に**氏名**のみを記入してください。なお、出席票は切り離さないでください。

五　解答は解答用紙の指定された解答欄に記入し、その他の部分には何も書いてはいけません。

六　解答用紙を折り曲げたり、破ったり、傷つけたりしないように注意してください。

七　この問題冊子は持ち帰ってください。

マーク・センス法についての注意

マーク・センス法とは、鉛筆でマークした部分を機械が直接よみとって採点する方法です。

一　マークは、左記の記入例のようにHBの黒鉛筆で枠の中をぬり残さず濃くぬりつぶしてください。

二　一つのマーク欄には一つしかマークしてはいけません。

三　訂正する場合は消しゴムでよく消し、消しくずはきれいに取り除いてください。

マーク例

①
○ 1 ○ 2 ● 3 ○ 4 ○ 5

（3と解答する場合）

一　左の文章を読んで後の設問に答えよ。（**解答**はすべて**解答用紙**に書くこと）

人の移動を論じるということは、たとえば、モノやカネの移動（貿易論と海外投資論）に労働力の移動を付け加えて世界経済を把握する、といったことではない。人の移動という観点から経済や社会をとらえるということは、項目として移民を付け足すことではない。それは、□ことを意味する。人の移動という研究の領域が新しい分野としてたんに付け加えられるというのではなく、移動という観点から、これまでとは異なる何がみえてくるのかを考えることであり、移民を研究するということは、ひとつの方法であり、方法としての移民である。

移民を方法としてとらえるということは、近代世界のさまざまなレヴェルでの編制とのかかわりから移民を位置づけることを意味する。たとえば、近代世界は、遠隔地貿易とともに、大規模な人の移動によって始まったといわれている。大航海時代をもって近代世界の開始と考えることこそが、ユーロセントリックであることは問わないとしても、移動のモデルがつねにヨーロッパからの「自由」な移民であったことは、移民研究の方法を規定してきた。また、商品や資本の移動（と制限）と結びついて人の移動（と制限）があったことは、これまでも指摘されてきたが、両者の差異が国民国家や近代世界の形成にもつ意味は、十分に考慮されることはなかった。

近代において、人々は、一方では、強制的・半強制的あるいは「自発的」に大陸を越えて移動するとともに、他方では、特定の土地へと結びつけられてきた。地球上を分割しつくした国民国家の原型をつくりだしたのは、大量の人の移動であり、ボウダイな人の移動を引き起こした植民地主義こそは、今日のさまざまなかたちで激化している民族紛争と呼ばれるものの起源でもある。国民国家が人々を境界のなかに囲いこみ、固定しようとしてきたことこそが、移民といわれる事象をつくりだし、人種主義の世界的な序列を構成し、民族的な対立を生みだしてきたのである。

移民の国と呼ばれる南北アメリカ大陸やオセアニアの諸国だけでなく、移民を送り出したヨーロッパやアジアあるいはアフリカ地域の諸国にとっても、人の移動は、国民国家形成（あるいは「非形成」）に決定的な意味をも

った。社会科学は、しばしばネーションを自生的で自立的な発展を遂げる、閉じたシステムとしてとらえてきた。国民経済、国民文化、国民社会は国民国家と同型であり、国民国家にとって、境界を越える人の移動は例外的な出来事であり、定住こそが常態であった。しかし、いまやそうした前提が崩れてきている。

かつて移民は国民国家をつくりあげたが、いまや国民国家を基盤としてきた世界編制が、大規模な移民によって大きく揺るがされている。近代は、人ならびにモノやカネの移動の自由が保障された時代だといわれてきた。しかし、(2)近代が移動の自由の時代であるというのには、ある一定の留保が必要である。なぜならば、移動の自由は、移動に対する国家の一元的管理の始まりでもあったからである。移動の管理や規制は、国家が独占的に掌握することになり、国境を越える移動とそうでない移動とは、徐々にではあるが、明確に区分けされるようになった。近代国家は、移動の自由を保障するとともに、境界において移動を管理する制度や手段をも生みだした。一定の領域の内部における移動の自由を促進しながらも、しかし境界を越える商品や人の移動の手段や制度を支配し、さまざまな制限を加えてきたし、現在も差異化が図られている。

資本主義は、本来、世界的であり、境界を画すことの合理性はない。それにもかかわらず、近代国家は、一方では移動の自由を掲げながらも、他方では境界を越える移動を制限してきた。近代における移動の自由とは、移動の自由の範囲を画定することであり、国境のなかでの移動と国境を越える移動とは区分けされ、貿易や投資、移民などの国際的な移動は国家と国家との間の権力を反映した地政学的な関係に規定されることになった。

境界を画されたことこそが、(3)境界を越える移動に特別な意味を与えることになる。とくに、人の移動は、国民国家の制度化にともない、徴税と国防の観点からも、商品や資本の移動とは区分けされるようになってきた。とくに商品や資本の移動と人の移動とが明確に対照化されてきたのは、最近のことであり、そのことが、現代国家の性格を特徴づけるとともに、現代移民を明らかにするカギのひとつである。商品や資本の自由化は極端なまでに進みながら、人の移動への規制は強化され続けるのである。

商品や資本は、それが境界を越えたからといって、国籍や出自によって特別な差異化が行なわれることはない。

文化的あるいは社会的属性を強調することはあっても、そのことによってモノやカネの出自が問われることはない。市場経済の自立的な(ロ)ジュンカン過程のなかで、これら生産要素の出自は、基本的には、脱色される。しかしながら、人は、国境を越えたからといって、容易には出自＝ナショナリティを脱することはできない。ナショナリティを脱色しようとする行為そのものが、大きな政治的・社会的問題を引き起こしてきているのである。

貿易や投資と人の移動との分離は、近代国家の政策課題のひとつであった。経済成長を維持するにはたえず新しい労働力を必要とし、社会的な秩序を維持するには新しい労働力を管理する必要がある、と考えられた。しかし、現代において、交通手段の発達やボウダイな情報のリアルタイムでの伝達は、かつての距離を大幅に短縮し、空間の絶滅をもたらしてきた。交通や情報、意志決定の集積する結節点としての都市が発達し、世界都市が航空網と電子情報網によって結びつけられる。しかしながら、時空間の圧縮は、具体的な場そのものを変容し、情報や移動手段へのアクセスの格差を極端なまでに拡大して、集団に差異化をもちこんできた。国民経済の、そして国民国家の溶解であり、ここに現代移民研究の重要な課題のひとつがある。

（伊豫谷登士翁「方法としての移民」による）

問

(A) ═══線部(イ)・(ロ)を漢字に改めよ。（ただし、楷書（かいしょ）で記すこと）

(B) 空欄 □ にはどのような言葉を補ったらよいか。左記各項の中から最も適当なもの一つを選び、番号で答えよ。

1　研究の領域を細分化する
2　学問の体系を構築する
3　認識の枠組みを根底から転換する
4　将来の展望を抜本的に見直す
5　分析の対象を大きく変更する

(C) ――線部(1)について。ここでいう「ヨーロッパからの「自由」な移民」と異なる移民とは、具体的にどのような人々をさしているか。左記各項の中から最も適当なもの一つを選び、番号で答えよ。

1 世界の構造を自らの目で確かめるために途上国に移動して貧困層と生活している人々
2 貧困から脱出するために国境を越えて欧米諸国に移動した人々
3 先進諸国における労働需要に応じて途上国から移動した人々
4 先進諸国による政策によって国境を越えて移動することを強いられた人々
5 途上国での事業拡大を目的として先進諸国から移動した人々

(D) ――線部(2)について。「ある一定の留保が必要である」のはなぜか。その理由として最も適当なもの一つを左記各項の中から選び、番号で答えよ。

1 移動の自由を手に入れていたのは、ヨーロッパからの自由な移民に限定されているから。
2 国境内の移動についても、国境を越える移動と同様にさまざまな制限が加えられているから。
3 移動のモデルについては、ヨーロッパからの自由な移民に限定してとらえられているから。
4 国境を越える人の移動については、国家による独占的な管理が行われているから。
5 近代国家は、国境を越える移動の自由を禁止することによって成り立っているから。

(E) ――線部(3)について。その意味内容として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

1 国境を越えて移動した人々は、国籍等を脱することができるようになる。
2 国境を越える人々が急増していることから、その規制が国家間の課題となっている。
3 商品や資本の移動は進んでいるが、人の移動は必ずしも進んでいるわけではない。
4 国境を越えて移動した人々が、国籍等によって差異化されたことから、社会的な問題が生じている。
5 徴税と国防の観点から、境界を超える商品の移動は制限されるようになっている。

(F) 左記各項のうち、本文の内容と合致するものを1、合致しないものを2として、それぞれ番号で答えよ。

イ　航空網の発達によって国境を越える移動の範囲は拡大しているが、それは場の変容をもたらし、集団に格差をもたらしている。

ロ　市場経済の自立的なジュンカン過程においては人の移動が活発になることから、移動の自由を保障するための制度を構築することが近代国家の課題のひとつである。

ハ　現代社会においては、定住こそが常態であって、国境を越える人の移動は例外的な事象としてとらえられている。

ニ　先進諸国では、経済成長を目的としてたえず新しい労働力を必要とし、社会的な秩序を維持するために、移動してきた労働者の管理が求められてきた。

ホ　交通手段や意志決定の集積する結節点としての都市が発達したことから、移動手段へのアクセスが容易になり、国境を超える移動が保障される時代になっている。

二　左の文章は二〇一二年に書かれたものである。これを読んで後の設問に答えよ。（**解答**はすべて**解答用紙**に書くこと）

資本主義のグローバル化が叫ばれ始めた一九九〇年代から、日本ではバブルが弾け、経済の低迷状態に陥っている。デフレに喘ぎ、円高に悩まされ、原油高に脅かされる状態が二〇年以上続いているからだ。日本の技術力は世界一流と言われながら、それを有効に活かす戦略を見出すことができずにガラパゴス化し、このままでは世界経済から落ちこぼれかねないという雰囲気が広がるばかりである。

その焦りがあるのか、経済原理ばかりを強調する論調が強くなっている。大学も例外ではない。「日本経済を活性化するための大学改革」が「遠山プラン」として出されたのが二〇〇三年で、翌年に国立大学が法人化されて民間の会社と同じ経営手法が適用されるようになった。大学の研究者も経済論理を意識して、社会の役に立たねばならないというわけである。その切り札は大学が獲得する特許の数や大学発のベンチャー数で、科学の成果を商業化（市場化）することが強く求められるようになった。その余波は社会が科学に与える限界として、科学の営みを浸食し始めている。

まず、その最初の兆候は特許を口実として、成果の公表を遅らせたり、不十分なままの発表であったりするようになったことだろうか。基本的なノウハウを(イ)ヒトクして特許が得られる期間を確保しようというわけである。科学の真髄は科学知識の［a］性にあり、その成果を迅速かつ過不足なく公表することが当然とされた。しかし、商業化が優先されるようになると、それに違反するようになってきた。違反ではなく、当然の方策となったのかもしれない。

常温核融合騒動（注1）のとき、フライシュマンとポンズはまず記者会見で結果のみを発表し、後になって簡単すぎて追試が不可能な短い論文を出しただけであった。韓国の黄教授はＥＳ細胞（注2）の(a)捏造で学界から追放されたが、彼もプレス発表によって自らの成果を誇示していた。彼らに共通しているのは要点をヒトクして詳細を発表しないや

り方で、それが科学の不正行為を招く要因になっている。重要なのは成果の過不足ない迅速な公開であり、幅広い同僚研究者からの検証なのである。 1

また気になるのは、科学者が自らの発見や発明を、やがて××に役立つとか、将来の(b)福音になるとか、と過大に言い立てる傾向が強まっている風潮である。例えば、マウスの実験によって効果があるとわかっても、人間への適用はずっと先のことである。それにもかかわらず、あたかも直ちに応用が利いて役に立つと強調するのだ（マウスで効果があっても、人間には通用しない場合が多い）。それは次の研究費を得るための方便なのかもしれないが、世間を欺く行為と言わざるを得ない。本人が信じ込んで起業し、失敗する例も多くある。

科学の商業化の風潮が強まるにつれ、科学者が社会に迎合する方向に靡(なび)いている。その風潮のために、新たな知見をもっと多様で、もっと可能性がある研究へと深める努力を放棄し、事柄の一端のみで満足してしまう。時間が短縮され、早く結果が求められるようになって、 あ 的な視点を失っている。そのことは、例えば新たに開発した薬の害（副作用）についての十分なテストを行わないまま商品化してしまったり、安易なテストのみで済ませてしまったりすることに通じる。科学の商業化は、万全の措置を求めたいという、科学者が本来持っている願望を制限してしまうのである。 2

もう一つの問題点は、商業化を目指すばかりに基礎からの研究がおざなりになり、改良主義に陥って、真のイノベーションの芽が潰されていく点だ。かつて電子顕微鏡の販売において日本は世界の七五パーセントまで市場を支配していた。ところが、数年前にドイツ製の新機軸の電子顕微鏡が出現し、今やドイツ製品が市場を圧倒するようになってしまった。その理由は、日本においてはいったん出来上がった製品の改良に力を入れたのだが、改良のみでは飛躍的な能力の上昇は期待できない。いったん電子顕微鏡競争に負けたドイツは、一五年の歳月をかけて全く新しい方式を開発し、一桁上の性能を発揮する商品を作り出したのである。科学の商業化が進んで成功すると、そこで立ち止まってしまう弊害が日本において如実に現れたと言うべきだろう。

科学は常に b しなければ進展しない。だから、敢えて競争原理を持ち出さなくても、研究者は日々競争

に明け暮れている。 3 しかし、商業化という目標が設定されてしまうと、そこで留まってしまう危険性がある。目標を完遂できたのだから、それでよかろうというわけだ。一つの特許を取ると、それに捉われてしまうという弊害もある。科学の原理は一つだけれど、それを人工物として実現する方式は複数ある。ある一つの方式が万全であるとは限らないし、それより良い方式も考えられる。それらをつぶさに点検して最善の方式を求めるのが科学の流儀なのだが、商業化という社会の制限が入ると費用対効果を指標にしてある一つの方式のみに固定されてしまう。科学の多様性が取捨されるのだ。より豊かな可能性があるのに、それが商業化のために切り捨てられているのである。科学への限界が強要されると言えるだろうか。

科学の商業化が科学の限界になっているのなら、それを逆手に取ってむしろ積極的に商業化に加担し、そこで得られた利得を有効に使って科学の限界を破ろうという動きもある。 4 商業化に翻弄されるアカデミズムではなく、思い切って旧来のアカデミズムを壊し、そこで得られた自前の資金によって科学を蘇生させようという動きである。

その代表的な動きが「アカデミック・キャピタリズム」であろうか。その名の通り「学界資本主義」であり、大学や研究機関が既存の資本に頼らず、積極的に自らが持つ知財（知的財産）を活かして研究基金を稼ごうという意図がある。従来あった大学発のベンチャー企業や特許会社を超えて、経営や経理、法律家や教育者、物作り職人や技術者など、多種多様な専門家をヨウ(ロ)している大学が持つ強みを活かそうというわけだ。

とはいえ、大学の人間は、科学には強いが実務には弱いという弱点がある。その弱点を克服するためにアカデミック・キャピタリズムの先進国であるアメリカでは、アカデミーを土台としつつ、実業家・弁護士・地域の活動家などを要所に配置して起業を促し、成功している企業も多くある。主にそれらは生物（創薬）や医療の分野で、特許を自らの手で囲い込むという手法を採っている。この方法では、 い 的な利得がない基礎研究の科学者もそれなりの目標を持ち、国家や大学の顔色を気にせずに研究に励むことができる。それぞれの成果は独立した別部門で審査される方式になっており、独自の研究に専心できるからだ。回りまわって結果的に企業に寄与

できればいいのである。 5

しかし、この方式はあくまでも応用領域の広い分野に限られる点に留意すべきだろう。宇宙の創世や物質の究極的構造など、真に基礎的であり、文化にのみ寄与する分野で起業するのは不可能である。その上、大学が教育と研究のための「知の共同体」ではなく、まさに「知の企業体」となることを容認しなければならない。そうなった場合、科学がチャレンジする問題は実用のものばかりとなり、 う 的な活動に寄与する文化としての科学は廃れてしまうだろう。科学の商業化がどんどん広がっている現在においてすら、時間がかかる真に基礎的な分野やゆっくり大輪の花を咲かせる分野が枯れかかっているのだから。

今後、アカデミック・キャピタリズムはいっそう拡大していくだろう。研究者であるはずの科学者が、経営者となり、従業員となり、セールスマンになるよう求められるのだ。その優劣が外部から獲得する資金の量も左右する。あらゆる分野にキャピタリズムの箍(たが)が嵌(は)められれば、科学は重い限界に遭遇して窒息させられるのではないだろうか。

（池内了『科学の限界』による）

（注）1 常温核融合騒動――極度の高温と高圧を必要とする水素原子の核融合反応が、常温でも観測されたとされ、その真偽をめぐって起きた騒動。

2 ES細胞――胚性幹細胞。万能細胞の一種で、臓器や組織に分化する能力があるとされる。

問

(A) ═══線部(イ)・(ロ)を漢字に改めよ。（ただし、楷書(かいしょ)で記すこと）

(B) ━━━線部(a)・(b)の読みを、平仮名・現代仮名遣いで記せ。

(C) 空欄 a にはどのような言葉を補ったらよいか。左記各項の中から最も適当なもの一つを選び、番号で答えよ。

1 可塑　2 信頼　3 客観　4 公共　5 再現

(D) 左記の一文は本文から抜き出したものである。これが入る最も適当な箇所を、空欄 1 ～ 5 のうちから一つ選び、番号で答えよ。

「それが科学の信頼性を保証し、それがあればこそ科学者は遠回りせずに研究を積み上げることができるのだ。」

(E) 空欄 あ ～ う にはそれぞれどのような言葉を補ったらよいか。その組み合わせとして最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

1 あ 普遍　い 実用　う 社会
2 あ 総合　い 直接　う 精神
3 あ 社会　い 実用　う 普遍
4 あ 総合　い 直接　う 普遍
5 あ 精神　い 実用　う 総合
6 あ 社会　い 直接　う 精神

(F) 空欄 b には四字熟語が入る。左記各項の中から最も適当なもの一つを選び、番号で答えよ。

1 知行合一　2 切歯扼腕　3 獅子奮迅　4 刻苦勉励　5 切磋琢磨

(G) ――線部について。その説明として適当なものを1、適当でないものを2とし、それぞれ番号で答えよ。

イ 検証実験などに十分な時間がかけられることなく、商品化が進むようになっている。
ロ 科学者が研究以外の実務に時間をとられ、イノベーションが起こりにくくなっている。
ハ 科学者が自らの発見や発明の意義や成果を過大に言い立てる傾向が強くなっている。
ニ 商業化に適した費用対効果の高い方式が重視されがちで、科学の多様性が失われつつある。

ホ　成果の過不足ない迅速な公開という科学の重要な原則がないがしろにされつつある。

(H)　左記各項のうち、本文の内容と合致するものを1、合致しないものを2として、それぞれ番号で答えよ。

イ　科学の商業化の進展によって、真に基礎的な分野や応用化のむずかしい分野が衰退しつつある。

ロ　基礎研究の科学者であっても独自の研究に専心することで、科学の商業化に貢献できる場合がある。

ハ　宇宙の創世などの文化にのみ寄与する分野を軽視しては、科学の商業化が成功することはあり得ない。

ニ　特許や商品化など科学の商業化が優先されるあまり、不正行為が助長される傾向が生まれている。

ホ　「アカデミック・キャピタリズム」は大学の多様な人材を活用し、科学の多様性を保証している。

三　左の文章を読んで後の設問に答えよ。（**解答**はすべて**解答用紙**に書くこと）

いにしへ、淡路国に、しばらく徘徊し侍りし事ありしかば、その国見ありき侍りしに、藤野の浦といふ所侍り。前は、南向き海漫々としてきはもなし。後は、北山険阻にして今にさがしき所侍り。渚にそひてひがたをまもりて、かの所にはいたるに侍り。(1)おぼろけにも、人のかよふ浦にも侍らず。しかあれども、藤野といふ名の、何となくむつましくおぼえて侍りしかば、(2)たどるたどる罷りて侍りしに、あやしくあさましき庵のやぶれて残り侍り。

□　覚えて見侍りしかば、庵の主は見え給はで、墨染の袈裟（けさ）と硯とばかり見え侍り。傍なる板に、「北嶺禅閣（注1）大僧正明雲の室（むろ）なり」と書かれ侍り。さては、この所に住み給ふ世のおはしけるよと、哀れに賢く覚えて、(3)そぞろに泪（なみだ）の落ち侍りき。

いまだ、(4)この所を出給はざりければこそ、硯、袈裟をば残し置きていまそかるらめと、思ひ侍りしかば、その日の傾くまで侍りしに、夕になりて、僧正山の上よりいまそかり、山桜の華をなん手折り給ひて、下り給へり。「こはいかにとよ。何とて尋ねいたりたるにや。都のかたに、(5)なにわざの言の葉か侍らん。今は天台を離れて、(6)かくて侍らんとこそ思ひとりたれ」とのたまひ侍りしに、御返事申すまでにも及ばず、随喜（ずいき）の泪せきかねて侍り。その夜は、御庵の傍に侍りて、何となく述懐ども申し出して、互ひに袖をしぼりて、さてあるべきにも侍らざりしかば、なくなくわかれたてまつりき。

公家にも用ゐられ、寺にも重くし奉り、よろづ執務していまそかりしかば、さきらはいまそかりとも（注2）、(7)大方にてこそいまそかるらめ。わきて身にしむまでは後の世の事おぼし入れ給はじと、この日比（ひごろ）は思ひけがし奉りけん事、あさましともおそろしきわざなるべし。げに、何とあるやらん。高位にのぼり給ふ人は、いかにも情けのわりなく、道心などもいまするぞとよ。ゆたかなるべき人そら（注3）、かやうにこそ後世を恐れて、人もなぎさのほとりに行きて、立つ浪、吹く風に付けて、無常をも観ぜさせ給へるに(8)、何をするともなきつたなき人の、いたづらとあるままに、その事となき偽りをかまへ、あるまじき事のみを思ひて、ますます流転（注4）のきづなを多く我が身に付

けて、この身を引き損ずるわざかな。うしといひてもなほ余りは多かるべし。

されば、閑かにおもひめぐらし給へ。昔さかりありし人も今は衰へ、昨日めでたかりし姿も今日はやつれ、あすか川のふちは瀬になり、せは又ふちとなる。木草もおなじくかれのの原となり、山もかれ、海もあせぬる世の中に、きはまりてあやふき身をもて、何のいさみがあればか、ここすみよしと思はん。いとほしく悲しき妻子も、そひはつべきにあらず。つひに別れの期あるべし。たとひ、万年が間命を保ちて侍りとも、別れの悲しく、命のをしからん、おしなべていづれもひとしかるべし。

（『撰集抄』による）

（注）
1 北嶺禅閣――比叡山延暦寺のこと。
2 さきら――才智、才覚。
3 そら――すら、さえの意。
4 流転――衆生が迷いの世界に生まれたり死んだりして、生死を繰り返すことのたとえ。流転生死ともいう。
5 あすか川――奈良県の飛鳥地方を北流し、大和川に注ぐ川。
6 いさみ――勇気。

問

(A) ――線部(1)の意味として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

1 常人では　2 軽い気持ちでは　3 簡単には
4 普通では　5 薄暗いうちには

(B) ――線部(2)の意味として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

1　離れがたく思われましたので　　2　親近感を持ちましたので
3　親しい人が待っているように感じまして　　4　なつかしい記憶が残っていまして
5　いわくありげな地名に思われましたので

(C)　空欄［　　］にはどのような語を補ったらよいか。左記各項の中から最も適当なもの一つを選び、番号で答えよ。

1　かたくなに　　2　おもはゆく　　3　めづらかに
4　つれなく　　5　したたかに

(D)　――線部(3)の現代語訳として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

1　さめざめと　　2　思いがけず　　3　感慨深くて
4　わずかに　　5　ぼう然と

(E)　――線部(4)の解釈として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

1　明雲大僧正がこの庵を引き払ってはいらっしゃらないから
2　庵の主がこの屋敷を留守にしてはいらっしゃらないから
3　他の誰かがこの庵の奥に隠れ住んでいらっしゃるから
4　誰もけわしいこの道を乗り越えられずにいらっしゃるから
5　同宿している者たちがこの場から退出なさらないから

(F)　――線部(5)の現代語訳として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

1　どんな噂をしているのでしょうか　　2　どのように伝えるというのでしょうか
3　どうして伝言などあるでしょうか　　4　何ゆえに伝えてきたのでしょうか
5　何か言ってきているのでしょうか

(G)　――線部(6)について。「かくて侍」ることを具体的に表現した部分を、本文のこれ以降の部分から抜き出

し、初めの三字を記せ。ただし、句読点は含まない。

(H) ――線部(7)の意味として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

1 才覚の程度はふつうでいらっしゃったのでしょう
2 仕事ぶりは抜群でいらっしゃったのでしょう
3 仏道への志向は並み程度でいらっしゃったのでしょう
4 帝から殊に重んじられていらっしゃったのでしょう
5 公的な地位は高くていらっしゃったのでしょう

(I) ――線部(8)の文法的説明として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

1 動詞「観ず」＋尊敬の助動詞「さす」＋動詞「給ふ」＋完了の助動詞「り」
2 動詞「観ず」＋使役の助動詞「さす」＋動詞「給ふ」＋尊敬の助動詞「る」
3 動詞「観ず」＋尊敬の助動詞「さす」＋動詞「給へる」
4 動詞「観ぜさす」＋動詞「給ふ」＋完了の助動詞「り」
5 動詞「観ぜさす」＋動詞「給へる」

(J) ――線部(9)について。ここで筆者はどのような概念をたとえているか。該当する最も適当な語句を本文中から探し出し、三字以内で記せ。ただし、句読点は含まない。

(K) ――線部(10)の解釈として最も適当なもの一つを、左記各項の中から選び、番号で答えよ。

1 長命・短命であることは同じ意味をもつことでしょう
2 長生きすれば平等に感じられるものなのです
3 別れの悲しさと命の惜しさはどちらも同じものなのです
4 命の長短にかかわらずどちらも等しいことでしょう
5 命短くともその意味を等しく受け止められるでしょう